

昭枝さんは、山下三郎さん(74歳没)、ハルエさん(80歳没)の7人兄弟の2番目として東4号北16に生まれました。戦前の記憶では、屋敷周りに小作人の住まいが3軒ほど建っていたそうです。昭枝さんは、国民学校高等科(現在の中学校に相当)を経て東川村立青年学校(現・東川高校)に進学。卒業後は両親の農業を手伝い、冬は和洋裁や編み物、生け花やお茶などを習いました。22歳の時、お見合いで当時26歳の亀宿(きしゆく)さん(56歳没)と結婚。亀宿さんは優れた洋家具職人だったそうです。その後、長女と次女、孫1人に恵まれました。

次女は過熟児の難病のため、脳性麻痺を伴って生まれました。水車の回るのどかな田園で育ってきた昭枝さんにとって、そこから試験の日々が始まりました。当時は保険もなく高価な注射薬でしたが、助けたい一心でなりふり構わず病院に通いました。医師から「機能訓練に力を入れた方がよい」と教えられ、札幌のあちこちの学園に親子で家庭訓練リハビリを受けにも行きました。また、子どもが社会に出ても困らないよう、日常生活の作法も身につけさせました。「素直で、ほめてあげると喜んで頑張ってくれた」と振り返ります。やがて小



学生になる次女のため、昭枝さんは東川に特殊学級(現・特別支援学級)を開設して欲しいと上川支庁(現・上川教育局)に働きかけました。その運動は何年も紆余曲折しながら、すずらん学級として開設されました。当時の東川小学校K校長がとても喜んでくださり、次女に「瓜生さんの教室だよ」と言ってくださったことが今でも忘れられないそうです。1976(昭和51)年、当時18才だった次女は北の峯学園(富良野市)に一期生として入園。昭枝さんはそこでも精力的に活動しました。そこまで頑張り抜いた原動力は?と聞くと、「母だからです」と力強い言葉が返ってきました。

38年前、突然の病で夫に先立たれ、しばらくは深い悲しみに暮れた時期もありました。今では近くに住む長女夫妻が次女の面会付き添いをはじめとして昭枝さんの日常生活を何かと気にかけてくれるそう。「いずれはふるさと東川の土になるけれど、それまでは周りの人々の温情を受けて生きていきたい」という昭枝さん。周りに感謝しながら自らの老いをしっかりと受け入れる潔さは、苦勞しながらも充実した人生を送ってきた証なのかもしれません。

此のまままで 分相応の 幸せと

謝して運命の 残り日を生く | 昭枝

俳句

コロナ渦巻く我はのれるかノアの方舟

変わらずに在れと初夏の雑木山

川音高く野のすみれも暖かし

未来行きのタイムカプセルあれば春

どしや降りでも未来が見える春の雨

鯉のぼり白き連山背に泳ぐ

しゃぼん玉あなたも除菌手伝って

母の文字春の小川で小流れで

繋いだ手きつと木の芽の温かき

馬洗いの道の跡あり土手の春

雨あがり一山どつと笑ひ初む

幼子の睫毛に光る風遊ぶ

コロナ渦積み木くずしや春寒し

束の間の日差し集めてチューリップ

よたよたのファーストシューズ青き踏む

保科 なほ

若田 郁

佐々木 りえ

本田 咲

こばやし 星来

斎藤 夕桜

山内 みゆ

小林 ろば

八田 昌代

石澤 清宏

杉山 ひろのり

横田 則子

杉山 りつ

高瀬 潤

三島 智



東川町ヌタップ吟社

石澤 ☎ 82-5146